

インド洋に面するタンザニアのダルエスサラーム港から、ビクトリア湖の南側を回り、隣国ルワンダの首都キガリに至る国際幹線は中央回廊と呼ばれ、東アフリカ地域の主要国際経済回廊に位置付けられています。この回廊のタンザニア・ルワンダ国境にあるルスモ橋は両国間の物流の重要地点となっていますが、道幅が狭く老朽化も進み、貿易拡大に伴う交通量増加に対応できていません。

本事業は、老朽化したルスモ国際橋の架け替え、タンザニア・ルワンダ間の国境手続円滑化のための施設建設および改修(ワン・ストップ・ボーダー・ポスト:OSBP*)を行うものです。これにより、ルスモ国境を通過する車両の重量・速度規制の緩和、越境手続きの時間短縮が可能となり、両国間の輸送コストの低減、貿易・投資の拡大に寄与することが期待され、タンザニア・ルワンダ両国のみならずブルンジやコンゴ民主共和国といった近隣内陸国も含めた周辺地域の経済発展に寄与すると期待されます。

2008年に開催された第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)にて、日本はアフリカ地域の広域インフラや、隣接国の越境手続きを一本化し物流の効率化を図るOSBP整備への支援を表明しています。本事業は、日本政府が支援を表明した「アフリカ諸国の広域道路網・通関手続円滑化施設の整備」を具体化するものです。(2012年12月時点)

※ ワンストップ・ボーダー・ポスト OSBP: One Stop Border Post 陸路における出国・入国手続きや税関検査等の国境手続きを、国境を接する二つの国が共同で行うことにより、一度で効率的に実施するため仕組み



混雑時の様子 (写真: JICA)